

『平和を求める自由』

——立川反戦ビラ入れ事件の「良心の囚人」——
行動する市民と憲法の両輪

二〇〇四年、自衛隊のイラク派兵に抗議する三人が立川の自衛隊宿舎で各戸の郵便受けにビラを投函し、逮捕される事件が起きた。市民たちの些細な行動に対して国家が背後を這い回り、その声を圧殺しようとしたのである。

郵便受け——「他者に向かって開かれた窓」とも呼ばれる——に投げ入れられたビラには、抗議者たちの連絡先が書かれ、自衛隊員による応答への期待が込められていた。そうしたささやかな実践にもかかわらず、三人が最終的に有罪を宣告されたという事実は、市民の相互性を脅威とみなす意思が司法にまで及んでいることを示している。

被告の一人、大西章寛は地裁の意見陳述で次のように述べている。「自衛隊員も含めた市民相互が自由に意見を交換できる現実があつて初めて、日本国憲法は『民主憲法』と呼ぶうるのです」と。日本国憲法は国家のあり方を反省し批判する契機を内に含み、その原理を具体化する存在が

市民であると彼は言う。すなわち、行動する市民と憲法の両輪こそが、社会を前進させるのである。

大西の言葉には、表現の自由の価値を低く見積もる世論への厳しい批判が込められていたはずだ。だがそれは同時に、この国で民主主義を形作るための柔らかな鼓舞でもあつただろう。そして大西の視座は、日本社会に対する著者ローレンス・レペタの温かな眼差しとも重なってみえる。では、レペタ自身の希望はどこに由来するのか。答えは本書の末尾に書かれている。(智)



著…ローレンス・レペタ
訳…市川正人・平野哲郎・坂田隆介
二〇二六年二月、日本評論社
定価一九八〇円(税込)

『労研饅頭ものがたり』

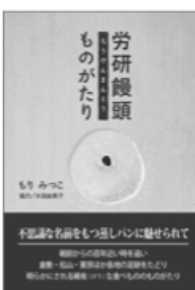
蒸しパンをめぐる人々の歴史

愛媛・松山名物の蒸しパン「ろうけんまんとう労研饅頭」は、名前の由来を調べずにいられない食べ物の一つだろう。「労研」は大原孫三郎が設立した倉敷労働科学研究所(現・大原記念労働科学研究所)のこと。所長の暉峻義等てるおかぎとう等を筆頭に、労働者の状態や安全衛生などを研究するなかで、安くて栄養価の高い主食代替品として開発されたのだ。ちょうど『女工哀史』が書かれた頃の話。中国のマントウに着想を得たもので、満洲から料理人を招いて指導を受けるほど力が入っていた。

「食糧問題の解決と社会奉仕」という壮大な使命を負った饅頭は、製造・販売許可制で全国展開された。値段も一律。業者には「高潔な人格」を求めた。一時はかなり普及し、学生の間食として人気を博したが、肝心の労働者には物足りなかつたようだ。ともあれ饅頭は倉敷を飛び立ち、各地でさまざまな物語を紡いでいった。

松山市の「たけうち」は、倉敷労研から引き継いだ酵母を今も使っている。毎日、生地の一部を蒸さずに残し、翌日の生地に混ぜるので、百年近くも酵母が継承されているのだ。大空襲でも店主の腹に巻かれて生き延びた。たけうちのルーツがキリスト教主義の夜学校にあることなど、詳しくは本書をお読みいただきたい。

饅頭は何も語らないが、そこには無数の人々の情熱が詰まっている。素朴な甘さを味わいながら、本書を頼りに歴史に思いを馳せてみよう。(亮)



著…もりみつこ
協力…太田由美子
二〇二六年五月、創風社出版
定価一八一五円(税込)

弁護士法人グリーンリーフ法律事務所

森田茂夫〔著〕

創立から35周年までの成功と失敗の軌跡

真摯な人間性が切り開いた埼玉県内一の実績! 「清く、正しく」を掲げ、専門化と組織化に挑み続けた弁護士法人。危機も失策も隠さない、あらゆる業種の発展の法則に通じる創立35周年のリアルな軌跡。

A5判 134頁 1980円(税込)

文藝・学術出版 鳥影社

〒160-0023
東京都新宿区
西新宿3-5-12-7F
☎03-5948-6470お求めはお近くの書店または弊社へ
<https://www.choeisha.com/>